

## 2018 年度の実業報告書

18 年 4 月 1 日から 19 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人かえる舎

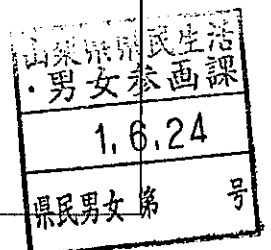
## 1 事業の成果

- ・以下の事業を実施した。
- ・市内高校と富士吉田市と連携協定に基づき、法人の目的を果たすべく産官学の連携による事業を実施し、生徒達の成長の促進できた。
- ・実施高校、実施授業時間数が増え、より多く受益者に価値を提供できるようになった。
- ・多くの人が生徒が作成した成果物にふれ、生徒が自治体 PR の役割を果たした。
- ・地元に残った生徒の中には一部、ポジティブな要因で地元に残った生徒もいた。
- ・生徒が生徒に教える循環が生まれ、縦の関係性が事業の実施を円滑にしていた。

## 2 事業の実施に関する事項

## (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の金額 (単位：千円)
地域での若年層の人口増に係るコーディネート事業	富士吉田市内の高校において、生徒たちがより広い視野を持ち将来をみつめ、より満足いく自己実現を果たせるよう対話型のワークショップを開催した。対話型のワークショップを踏まえて、地域の中で活動をしながら、働くような実際のイメージをくっきりとさせていった。5 回とも地域内外の多くの社会人の参加を得て、多様な働き方、生き方に触れることができた。	(A) 3 年 5 月担当部署の先生方と連携団体の打ち合わせ 1 月担任の先生方との打ち合わせ 2 月「3 年間の振り返りとこれからの人生設計」の授業 2 年 5 月担当部署の先生方と連携団体の打ち合わせ 7 月「サプライチェーンを通じて業界を知る」授業 1 月担任の先生方との打ち合わせ 1 月「働く価値観を深める」授業 2 月ライフプラン 2.0 各クラス発表会 1 年 5 月担当部署の先生方と連携団体の打ち合わせ	(D) 富士北稜高校 1.2.3 年 (E) 800 名	1760 千円



		<p>せ</p> <p>7月「価値観を知る」カードワーク授業</p> <p>10月担任の先生方との打ち合わせ</p> <p>11月「価値観を知る」コラージュ作成授業</p> <p>12月ライフプラン 1.0 発表会</p> <p>(B)富士北稜高校 (C)30名</p>		
地域での若年層の人口増に係るコーディネート事業	<p>・観光地化する富士吉田市で今後地域としておもてなしの外国人対応を求められている。そんな地域の課題に対して、高校生と市役所担当課が授業を通して、課題解決提案を考えて、伝えていく授業プログラムを実施した。当プログラムを通して地域への興味を喚起して定住人口の増加にしている、</p>	<p>(A)</p> <p>4月総合学科と授業に関する打ち合わせ 市役所担当職員と授業に関する調整 市役所担当課授業ない資料作成</p> <p>5月市役所と学校担当と授業に関する事前打ち合わせ 授業実施（課題探求ワークショップ） 授業実施（国際担当） 授業実施（オリンピック担当）</p> <p>6月授業実施（課題解決提案づくり） 授業実施（生徒発表資料作成）</p> <p>7月授業実施（発表会 in 学校）：250名聴講</p> <p>(B)富士北稜高校 (C)5名</p>	<p>(D)富士北稜高校1年 (E)280名</p>	720千円
地域での若年層の人口増に係るコーディネート事業	<p>・高校生が地元の魅力を発掘、創造、発信を通して、郷土愛の醸成を図る事業を実施した。取り組んだ内容は地場産業である織物の捨てられてしまう生地を生かしたアップサイクルプロジェクトと、地域内の資源である水とお米という1次産業に目をむけ、甘酒と味噌に加工し販売する6次産業化にも取り組み、高校生が地元の資源に目を向け、それを自分たちの手でわかりやすく伝える商品を開発していった。イベント</p>	<p>(A)</p> <p>&lt;織物&gt;</p> <p>6月地場産業事業者「光織物」と事業打ち合わせ プロダクト制作「ALLYOURS」と事業打ち合わせ 企画書制作 生徒ガイダンス実施</p> <p>7月機織事業者フィールドワーク（2回）</p> <p>8月プロダクト考案ワークショップ（3回）</p> <p>9月織物事業者フィールドワーク（工程別4回）</p> <p>10月機織イベント参加（2回）</p> <p>11月プロダクト考案ワークショップ（2回）</p>	<p>(D)富士北稜高校の有志生徒25名と事業者4社、富士吉田市 (E)生徒25名、イベント時に来店した延べ500名</p>	1400千円

	<p>などを通じて、多くの地域外の方に魅力を発信していく中で、自らの地域に対するプライドが形成されていった。</p>	<p>12月ネーミング、ロゴ      考案ワークショップ      (2回)      1月報告会事前発表資料      作成準備(4回)      2月報告会の開催      &lt;甘酒&gt;      6月地場産業事業者富士      ミネラルウォーター      打ち合わせ      生徒ガイダンス実施      7月事業者による講座      (2回)      8月プロダクト考案ワ      ークショップ(3回)      9月出店に関するアイ      テム制作(3回)      甘酒試作(2回)      出店にかかる準備      (4回)      10月機織イベント出店      (2回)      11月振り返り(1回)      12月ネーミング、ロゴ      考案ワークショップ      (2回)      1月ロゴ考案&amp;事業者      打ち合わせ      3月イオン甲府昭和店      にて出店準備(1回)      イオン甲府昭和店に      て出店(1回)      &lt;味噌&gt;      11月富士吉田市ふるさ      と納税推進室打ち合      わせ      米の手配      五味醤油プロダクト      打ち合わせ      五味醤油高校生向け      講座打ち合わせ      生徒に対する講座の      開催(2回)      12月味噌づくり実施(1      回)      1月プロダクトネーミ      ング会議(3回)      プロダクト販売会議      (1回)      ロゴ考案&amp;事業者打      ち合わせ</p> <p>(B) 富士吉田市内各事業      所、五味醤油、リト      ルロボット、イベン      ト会場等</p>		
--	--	---	--	--

		(C) 15名		
子ども、若者の居場所づくり事業	<p>・高校生が学校以外に安心して活動できる場所はなかった。公民館でも図書館でもない、地域のためになる、郷土愛を醸成できるような活動を実施するための拠点施設がなく、生徒は学校を出ると居場所と活動場所がないというのが地域の現状であった。そこで、市役所から業務委託を受け、高校生の拠点整備活動を始めた。子供達のさらなる地域活動の促進と地域参画を通じた自己肯定感の醸成のために地域として場所の必要性が訴求されてきた。そこで、場所の背景、意義を生徒たちと考え、地域住民と生徒によるワークショップを1回とアンケート調査を1回実施し、市長への報告会を含め形づくっていった。その中で、壁を塗る、机を作るなどの生徒ができる作業は生徒が率先して取り組み、つくるプロセスにおいても参加している実感を失わないような工夫を持たせて事業を実施した。</p>	<p>A)  &lt;調査&gt;  6月ツバメアーキテクツと現場調査(3日間)  周辺地域調査に関する事前調査(3日間)  富士吉田生涯学習課と高校生対象講座打ち合わせ  高校生現場見学会  高校生周辺地域フィールドワーク  7月事業者による講座(1回)  高校生現場掃除  高校生現場測量  ツバメアーキテクツ現状図面化  &lt;構想&gt;  6月ツバメアーキテクツとワークショップ打ち合わせ  ワークショップに関する資料作成  ワークショップ参加者募集と集計  ワークショップ会場調整と準備  ツバメアーキテクツ模型などの備品作成  7月ワークショップの開催  8月第2回ワークショップ開催の決定と打ち合わせ  参加者再募集業務  ワークショップ資料作成  (第2回は台風により中止)  アンケート型ワークシートの配布と回収  9月ワークショップ資料回収と集計  ツバメアーキテクツによる分析業務  &lt;報告&gt;  9月ツバメアーキテクツによる分析  ツバメアーキテクツによる設計図面化  ツバメアーキテクツ</p>	<p>(D) 富士北稜高校 22名、吉田高校 3名  (E) 生徒 25人</p>	7400千円

		<p>による模型化 生徒報告会資料作成 (4回) 報告会会場調整と準備 参加者募集の呼びかけ 報告会の実施 担当者同士の打ち合わせ</p> <p>&lt;改修&gt; 2月 TEAM クラブトンと 打ち合わせ TEAM クラブトンによる ワークショップ案 作成 会場の調整 道具の手配 滝口建築による指導 員の配置</p> <p>3月ワークショップの 開催(2日間)</p> <p>(B) 富士北稜高校、セン ゲンボウ、富士山ミ ュージアム、富士吉 田観光振興サービ ス、 (C) 延べ60名程度(ワー クショップ参加者や 改修作業参加者も含 む)</p>		
<p>地域での若年 層の人口増に 係るコーデ ィネット事業</p>	<p>・地域課題解決に向け て、リサーチ、着想、 企画の実現に向けて 動いていく、地域を 知り、地域を変えて いくためのプログラ ムを、都内の企業、 大学と連携して実施 した。外の視点を地 元の高校生が学びな がら、地域に目を向 けていくことで、普 段気づかなかった地 域の魅力を発見して いき、シビックプラ イドの醸成につなが った。</p>	<p>(A) 9月 慶應義塾大学、博 報堂と打ち合わせ 企画書作成業務 市役所調整業 10月 生徒募集 11月 事前ワークショッ プ(地域フィールド ワーク) 12月 講座1(発想ワーク ショップ) 講座2(地域課題着 想ワークショップ) 1月 講座3(企画案作 成) 2月 講座4(東京視察) 報告会事前発表資料 作成 講座5(報告会の実 施)</p> <p>(B) 市内事業者、リトル ロボット、市内公民 館などのコミュニテ ィスペース</p>	<p>(D) 吉田高校 3名、富士 北稜高校 3名 (E) 6名</p>	<p>1000千円</p>

		(C) 企業 2 名 大学生 3 名 かえる舎 2 名		
地域での若年層の人口増に係るコーディネート事業	・甲府市を中心に、地域資源を発掘し、発信していくことを通して、郷土愛を醸成していくプログラムをじっしした。甲府商業高校のマーケティング部と連携し、市内事業者を取材し、発信していくおプラットフォームの構築をすすめていった。	(A) 4 月企画実施に向け、中心市街活性化に関する各ステークホルダーと打ち合わせ（甲府市役所、銀座通り商店街など） 6 月学校にて生徒たち向けガイダンスの開催 9 月取材活動 11 月取材活動まとめ 12 月媒体掲載用の資料作成 1 月報告会用資料の作成 3 月プラットフォームへの掲載作業、関係者向け報告会の開催 1 月まとめ媒体制作業務 (B) 甲府市内事業者、甲府商業高校、甲府市役所 (C) 企業 6 社 かえる舎 1 名	(D) 甲府商業高校 15 名 (E) 15 名	450 千円
地域での若年層の人口増に係るコーディネート事業	・ふるさと納税制度と連携して、地域内事業者の魅力が高校生が発信することで、地域内外に魅力発信するとともに、取り組む生徒の郷土愛の醸成をはかる事業を実施した。アウトプットとして、事業者 5 社を動画で PR し、10 社をカードで紹介し、全体として地域を感じられるようなパッケージを制作するという 3 本立てで年間 300 時間程度生徒と地域探究型の授業を実施した。それを通じて、自身が取材した会社へと就職する生徒が生まれたりなど、実績として生徒と地域の好循環が生まれつつある。	(A) 4 月イントロダクションガイダンス 5 月調べる作業 ふるさと納税について 事業者について 参考事例について 6 月ゲスト講師によるレクチャー 取材 1 回目 取材内容をまとめる 取材ふりかえりとブラッシュアップ 9 月編集作業 取材 2 回目 10 月発表資料作成 中間発表 掲載情報の整理 ふりかえり 11 月事業者へのアンケート調査の実施 アンケート内容の分析 12 月事業者への感謝状の作成 ふりかえりまとめ 1 月発表資料作成	(D) 富士北稜高校商業系列 100 名 (E) 100 名	3730 千円

		2月最終発表 (B)市内事業者、富士北稜高校 (C)企業計10社 アドバイザー5名 かえる舎3名		
その他の事業	実施しなかった。	A)0 (B)0 (C)0	D)0 (E)0	0

第2期

# 決算報告書

自：平成30年 4月 1日

至：平成31年 3月31日

〒403-0009

山梨県富士吉田市富士見1-1-5

特定非営利活動法人かえる舎

理事長 齋藤 和真



## 活動計算書

平成 30年 4月 1日 から平成 31年 3月 31日 まで

特定非営利活動法人かえる舎  
(単位：円)

科 目	金	額
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	30,000	30,000
2. 受取助成金等		
受取民間助成金	262,000	262,000
3. 事業収益		
売上高	17,429,760	17,429,760
4. その他収益		
受取利息	32	
雑収益	101,450	101,482
経常収益計		17,823,242
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
役員報酬	3,756,000	
法定福利費	585,466	
人件費計	4,341,466	
(2) その他経費		
業務委託費	9,969,360	
諸謝金	150,000	
印刷製本費	115,270	
会議費	71,555	
旅費交通費	313,560	
車両費	387,456	
消耗品費	530,536	
地代家賃	120,000	
租税公課	26,550	
接待交際費	375,426	
支払利息	42,741	
雑費	21,110	
その他経費計	12,123,564	
事業費計		16,465,030
2. 管理費		
(1) その他経費		
接待交際費	15,000	
旅費交通費	26,710	
通信運搬費	25,596	
消耗品費	661,182	
租税公課	1,450	
管理諸費	41,040	
雑費	39,386	
その他経費計	810,364	
管理費計		810,364
経常費用計		17,275,394
当期経常増減額		547,848
III 経常外収益		
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
経常外費用計		0

科 目	金 額
税引前当期正味財産増減額	547,848
法人税、住民税及び事業税	184,904
当期正味財産増減額	362,944
前期繰越正味財産額	717,403
次期繰越正味財産額	1,080,347

## 貸借対照表

平成 31年 3月 31日 現在

特定非営利活動法人かえる舎

(単位：円)

科 目	金	額	
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	928,715		
未収金	8,901,858		
流動資産合計		9,830,573	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
有形固定資産計	0		
(2) 無形固定資産			
無形固定資産計	0		
(3) 投資その他の資産			
出資金	10,000		
投資その他の資産計	10,000		
固定資産合計		10,000	
資産合計			9,840,573
II 負債の部			
1. 流動負債			
短期借入金	6,480,000		
未払金	2,042,336		
未払法人税等	184,900		
預り金	52,990		
流動負債合計		8,760,226	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			8,760,226
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		717,403	
当期正味財産増減額		362,944	
正味財産合計			1,080,347
負債及び正味財産合計			9,840,573

財 産 目 録

平成 31年 3月 31日 現在

特定非営利活動法人かえる舎  
(単位：円)

科 目		金 額	
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金			
手元現金		7,540	
普通預金	都留信用組合本店営業部1138918	921,175	
未収金	富士吉田市他	8,901,858	
流動資産合計			9,830,573
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
有形固定資産計		0	
(2) 無形固定資産			
無形固定資産計		0	
(3) 投資その他の資産			
出資金	都留信用組合	10,000	
投資その他の資産計		10,000	
固定資産合計			10,000
資産合計			9,840,573
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
短期借入金	都留信用組合	6,480,000	
未払金		2,042,336	
未払法人税等		184,900	
預り金	源泉所得税	52,990	
流動負債合計			8,760,226
2. 固定負債			
固定負債合計			0
負債合計			8,760,226
正味財産			1,080,347

特定非営利活動法人 かえる舎

## 計算書類の注記

## 1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

## (1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

## 2. 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
什器備品	0	0	0	0		0
無形固定資産	0	0	0	0		0
投資その他の資産	0	10,000	0	10,000		10,000
合計	0	10,000	0	10,000		10,000

## 3. 借入金の内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
短期借入金	0	6,480,000		6,480,000
合計	0	6,480,000		6,480,000

## 4. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

(単位：円)

科目	計算書類に計上された金額	内、役員との取引	内、近親者及び支配法人等との取引
(活動計算書)			
受取寄附金	30,000	0	
委託料	9,969,360	0	
活動計算書計	9,999,360	0	
(貸借対照表)			
未払金	2,042,336	676,853	0
役員借入金			
貸借対照表計	2,042,336	676,853	0